

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890100518
法人名	株式会社 ニチイ学館
事業所名	ニチイのほほえみ松山
所在地	松山市余戸南4丁目4-2
自己評価作成日	平成22年12月6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々楽しく生きがいを持って生活できる様、利用者の要望を取り入れ家庭的な料理・生活空間などに力を入れ取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、理念にある「生きがいのある暮らし」を実践できるよう、利用者の誕生日には個々の馴染みの場所等に出かけることを計画し、取り組みをすすめておられる。生まれ育った場所にドライブに行かれたり、絵のお好きな方と美術館に行かれたり、ご家族も一緒に出かける等、個々の希望も聞きながら支援されている。事業所に職場の同僚の方が訪ねて来てくれることもある。
10月に行われた避難訓練は、消防団員である民生委員の方や町内会長にも参加いただき、利用者の誘導に協力していただいた。民生委員からは「鍋等を叩いて、音を出しながら、近隣住民に応援を求めているどうか」と、アドバイスをいただいた。最近、スプリンクラーと消防署への自動通報装置を設置されており、いざという時のために、レトルト食品や缶詰等、3日分程度の非常食の備蓄をされている。又、事業所では、地区の防災訓練や2ヶ月に1度の「防災ネットワーク会議」に「防災委員」の職員が参加されており、地域との相互協力体制作りにも取り組んでおられる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 ニチイのほほえみ松山

(ユニット名) マーガレット

記入者(管理者)

氏名 松下 美保

評価完了日 2010年 12月 6日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 毎朝、朝礼にて当社の理念を職員全員で唱和し、理念を共有、意識して日々の実践につなげている。	
			(外部評価) 前回の外部評価を受け、7月に全職員が意見を出し合い、管理者とともに話し合って「自分でできる喜びといきがいのある暮らし」という事業所独自の理念を作成された。管理者は「利用者個々のできることを探して、最期まで喜びといきがいのある暮らしを支援していきたい」と話しておられた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 利用者が地域とつながり安心した暮らしを続けられるように、地域の行事に参加したり、ボランティアの方にも来てもらい交流を図っている。又、地域役員から構成され行われている会議にも参加し地域の一員として協力したり、助けて頂いている。	
			(外部評価) 事業所で毎年5月に開設を祝う行事「ほほえみ万博」を開催しておられ、今年は30名ほどの地域の方が来てくださった。ボランティアによるハワイアンバンドの演奏や琉球太鼓等も披露していただき、利用者も地域の方達とともに楽しまれた。地域の盆踊りには、6名の職員がハッピー姿で踊りの輪に参加し、半数ほどの利用者が見学に出かけられた。事業所の畑を広げた際には、近所の方から使用していない農具等をいただいた。クリスマス会には、踊りを披露して下さる地域の「八千代会」又、お琴のボランティアの方が来てくださる予定となっていた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方からの認知症についての相談、質問に答えながら認知症の方への理解や対応の方法等を伝えている。(運営推進会議等)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 地域の理解と支援を得る為の貴重な会議として、当事業所 の取組みを知って頂いたり、サービスの実際、利用状況、 外部評価当等の報告をし、意見内容をサービスの向上に活 かしてる。</p> <p>(外部評価) 会議には、町内会長や民生委員、他グループホームからも 出席をいただいている。外部評価の結果を説明されたり、事 業所理念を作成した際には、作成の過程を説明されたり、 又、理念をどのように実践につなげていくか等説明し、意見 交換をされた。今年度の会議では、災害対策について意見 をいただくことが多く、会議時出された意見をもとに避難しや すいようにスロープを設けたり、裏庭に設けられていた柵を 外された。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 定期的に市町村窓口へ訪問し、現場の実情を伝えたり情報 を収集したり、直面している課題解決に向けた話し合いや対 応等についてアドバイスを頂く様にしている。</p> <p>(外部評価) 地域包括支援センター主催の認知症サポーター講座が公 民館で開催された際には、職員は「参加者から意見を聞く」 等、協力をされた。地域包括支援センターの方に事業所に 来ていただき、利用者が行う体操の方法を指導していただ いたこともある。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束の内容とその弊害を認識し、身体拘束をしないケ アを実践している。又、ホーム全体で話し合い正しく理解す るよう周知している。</p> <p>(外部評価) 事業所に「高齢者虐待防止委員」を設置して、ユニット会議 時等には、スピーチロック等について管理者は「聞いて不快 に思うことは、ことばの暴力に当たる」と説明して、事業所 での事例を用いて意見交換したり、知識等を勉強され、虐待や 身体拘束について全職員が正しく理解できるよう取組み られている。玄関は、センサーがついており、出入りするとチャイ ムが鳴るようになっていた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ホーム全体会議、ユニット会議等で高齢者虐待についての理解を図り職員全員の問題として捉え日々のケアの中で注意喚起を行う。又、高齢者虐待防止についての研修報告書を会社に提出している。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度概要等の説明、申し立て手続きに関する専門機関や相談窓口等が紹介出来る体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 詳細については契約時に詳しく説明を行っている。他、改定後の際は、家族会又個別に連絡をし不安や疑問点を尋ね十分な説明を行い理解納得を得られるように努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関にご意見箱を設置したり、面会時、運営推進会議等で利用者や家族様の意見、要望をサービスの質の向上に繋げていくよう努めている。又家族様に声を掛けてケアカンファレンスにも参加して頂き意見要望等を聞き取れるような環境機会を作れるようにも努めている。 (外部評価) 通信担当の職員の異動等もあり、季節ごとに発行されていた事業所通信の発行が1年間遅れているようだ。ご家族の来訪時には、利用者の暮らしぶりを報告されているが、遠方で普段来訪が難しいご家族には、年1回の報告となる場合もあるようだ。運営推進会議の案内は、ご家族の来訪時に口頭でお願いされているが、参加していただける方は少なく、事業所独自でアンケートを取ってみられたが、協力いただけたご家族は少なかったようだ。	管理者は「ご本人の暮らしぶりを伝える手紙に写真を添えて家族に届けたい」と考えられていた。事業所からの情報提供については、ご家族の知りたい情報を提供できるよう工夫されてほしい。さらにご家族が事業所のケアサービスの具体を知ることに関心を持ってもらったり具体的な意見を聞けるよう、取り組みをすすめていかれてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会議やホーム会議、カンファレンスを開催し利用者の方の状況や実情を知っている現場職員の意見を活かしより良いサービスの質の確保や向上に活かしている。又より多く外部研修への参加が出来る様、連絡協議会等の会員となった。	
			(外部評価) 管理者は「ホームは、みんなで作っていくもの」と考えておられ「地域密着推進委員」「防災委員」等、事業所の運営に関する職員の役割を決めて、各委員に所属する職員が中心となり、取り組みをすすめておられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の実績、勤務状況を把握し定期的に個別面談等を行い各自が向上心を持てるよう働きかけている。又実績に応じてのキャリアアップ制度等を取り入れ昇給にも反映出来るやりがいのある職場環境作りを行っている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ホーム会議、各ユニットで勉強会を開催し職員が学ぶ機会を設けたり、社協、連絡協議等の研修への参加を回覧したり促している。研修後はホーム会議で報告を行い職員全員に周知している。又、個別に技術指導や知識・判断基準・接遇についても指導し職員ひとり一人の質の向上に努めている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進会議への相互訪問も出来る機会作ったり、行事にも参加する機会を設けている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 初期段階にて家族様から不安、要望等についての聞き取りを行っている。職員が馴染みのあるお話をしたり、多く関わりをもち不安の軽減、安心感を持ってもらえるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時に、家族様に困っている事や不安な事を聞いたり、又こちらからも呼びかけたりする事で相談しやすい環境作りにも努めている。訪問時や電話にて利用者の方の近況報告、ホームでの生活状況等をお伝えして安心していただくよう努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の実情や要望をもとにまず必要な支援を見極め個々にあったサービスを提供する。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の得意な事や出来る事は共に行ったり、お願いし共に過ごし支えあう関係作りに努めている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 訪問時や行事等に参加していただき、一緒に楽しんでいただいたり、一緒に過ごす時間を持つことでよりよい関係が築けるように配慮し支援する。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 土日祝日等関係なく面会できる体制を整えている。特別な日には職員と一緒に馴染みの場所に出かけたり行事毎には、家族様に参加してもらったりして、関係が途切れないように支援している。 (外部評価) 事業所では、理念にある「生きがいのある暮らし」を実践できるよう、利用者の誕生日には個々の馴染みの場所等に出かけることを計画し、取り組みをすすめておられる。生まれ育った場所にドライブに行かれたり、絵のお好きな方と美術館に行かれたり、ご家族も一緒に出かける等、個々の希望も聞きながら支援されている。事業所に職場の同僚の方が訪ねて来てくれることもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 共に食事を摂ったり共有のスペースにテレビ等に置き利用者同士のコミュニケーションをとれる様に支援している。又各階合同の催し物を聞き交流を深める機会を作っている。利用者の様子を観察して必要に応じた雰囲気作りを心掛けている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて情報を伝えたり、近況についてもお伺いする時間を作る等し相談支援が出来るように努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の思いや希望を聞いて生活に活かし、望む暮らしが出来る様支援している。 (外部評価) 入居時に、ケアマネージャーがセンター方式の様式を用いて、ご本人にお聞きしたりご家族に「昔どんなことが好きだったか」等を聞く等して、ご本人の思いや意向の把握に努めておられる。ご本人の情報収集にも努めておられる。他の人がいる前では言い出せない利用者も、一人の時には思いを聞かせてくださることもあり、職員は「利用者の要望を聞く」ことを大切にして、個々の声に耳を傾けておられる。	9月にケアマネージャーの交代があったようだが、職員の内れ替わりがあっても、利用者個々の思いや意向等の情報を引き継ぐことができるような仕組みの充実が期待される。又、利用者個々の情報の共有にも努めていかれてほしい。「利用者のできることを続けられるような支援」に向けて、さらなる個々のアセスメントの充実が期待される。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者の生活歴や馴染みの暮らしを大切にして利用者の望む生活を聞き取りひとり一人のペースにあわせられる様努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々のバイタル測定や表情会話等、食事の摂取量、排泄状況から心身状態を把握するよう努めている。又利用者の生活のペースをひとり一人支援し、自由にかつ生きがいをもってもらうよう心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者、家族様から聞き得た思いや要望と、更新時、退院時、状態の変化の都度見直しを行いより良い介護計画の作成に努めている。家族様も交えてのカンファレンスも実施。</p> <p>(外部評価)</p> <p>計画は、基本的に3ヶ月に1度モニタリングを行い、見直しをされている。入居直後は、2週間で見直しをされている。現在は、計画作成前に、ご本人・ご家族から意見をお聞きし、カンファレンスでケアマネージャーとユニットリーダー、職員が話し合い、計画を作成しておられる。ケアマネージャーの交代後、カンファレンスへのご家族参加が滞っているため、今後「ご家族参加のカンファレンスが行えるよう取り組んでいきたい」と考えておられた。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日々の生活の様子を個人記録、管理日誌に記入しその気づきや結果を職員間で情報を共有して日々のケアに活かしている。又カンファレンスにて情報を共有して介護計画の見直しに反映されている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者、家族様の状況やニーズに応じた対応、事業者との連携を行い福祉用具等の提供相談も行っている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域のボランティアや民生委員を始め、町内の協力を得て地域行事や消防訓練等を行ったり利用者ひとり一人の暮らしを支えられる様取り組んでいる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 当事業所の協力医療機関等の説明をし同意納得を得た上で適切に医療を受けられるように支援している。提携医と24時間いつでも報告・連絡・相談を行える体制を整え本人、家族に安心していただけるように努めている。又、医療連携体制加算実施により、より適切な対応が取れる体制を整備することが出来た。	
			(外部評価) 入居時、かかりつけ医について話し合う際に「これまでのかかりつけ医を受診される場合は、ご家族に付き添いをお願いすること、又、「事業所で通院介助を行う場合は、協力医療機関で診てもらおうようになること」を説明して、決めてもらうようになっている。歯科は、訪問歯科が来てくださるようになってきている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 往診時に日常の健康管理や医療活用の支援をしている。又、日々の関わりの中での気づきや状態変化等には適宜に提携医、訪問看護師に相談し必要に応じ受診できる体制を整えている。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院による不安をなくし安心して治療が出来る様に定期的に入院先へ訪問し病院関係者との情報交換や相談に努めている。入院する際は、本人のストレスや負担を軽減する為に情報の提供を行い、早期退院に向け医療機関との連携に努めている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 出来るだけ早い段階に本人・家族等との話し合いを行い本人・家族の意向を理解し確認を取る様に努めている。医療連携体制加算の実施により重度化や終末期への方針、支援が出来る体制を整えている。	
			(外部評価) 10月より、医療連携体制をとり「重度化した場合における対応に係る指針」を作成して、ご家族等に利用者の終末期の支援についてや事業所で看取り支援が可能であることを説明された。最期まで看てもらえるということに、多くのご家族が安心されたようである。現在、ご本人・ご家族から「ここで居たい」との希望があり、終末期を過ごされている利用者がおられ、ご家族とも協力しながら支えておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に応急手当講習を消防署指導の基に行い急変時や事故発生時に備えている。又、地域主催の応急手当講習にも参加し技術と知識の向上に努めている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防署立会いのもと、避難訓練を行っている。運営推進会議にて地域の方と協力しあえるよう話しあったり、アドバイスを頂いたりしている。又、民生委員さんの協力のもと、災害時の避難場所として、近隣の施設への協力を得られるようにしている。	
			(外部評価) 年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施されている。10月に行われた避難訓練は、早朝7時に1階から出火したことを想定し行っておられ、消防団員である民生委員の方や町内会長にも参加いただき、利用者の誘導に協力していただいた。民生委員からは「鍋等を叩いて、音を出しながら、近隣住民に応援を求めているどうか」と、アドバイスをいただいた。最近、スプリンクラーと消防署への自動通報装置を設置されており、いざという時のために、レトルト食品や缶詰等、3日分程度の非常食の備蓄をされている。又、事業所では、地区の防災訓練や2ヶ月に1度の「防災ネットワーク会議」に「防災委員」の職員が参加されており、地域との相互協力体制作りにも取り組んでおられる。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉のかけ方や対応の仕方について話し合いの場で意見を交換したり確認をし日々のケアに活かすように努めている。間又、利用者や家族の立場に立った思いを考えるようにしている。	
			(外部評価) 管理者はこの1年、職員の利用者へのかかわり方等について、まず「利用者目線と目線を合わせる」ことを職員に指導して来られた。利用者とお話する時に職員は、椅子を持って来られ、座って目線を利用者とお話することをお話することを心掛けられた。利用者が手を振ると、職員もそれに応じて笑顔で手を振り返しているような場面も見られた。居間からトイレの出入りが見えるが、入り口にのれんを掛けたり、脱衣室側の出入り口を使う等配慮されていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で本人が希望の表出や自己決定できるよう日常的に声掛けを行い自己決定の機会を増やすように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ひとり一人の生活のリズムに寄り、日常生活等に可能な限り本人の希望に沿って支援できるように、日々柔軟な対応を心掛けている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 美容室等の利用や個々に応じた希望にも添えるように支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の方と一緒に広告をみながら献立を考えたり、スーパーへの買い物、共同で食事を作ったりする機会を設けたりしている。又、ホーム庭で育てた野菜の収穫を一緒に行ったりしている。	
			(外部評価) 調査訪問時、利用者が玉子を割って、茶碗蒸しの準備をされたり、おかずの盛り付けをする様子うかがえた。献立は、冷蔵庫の食材を見て、利用者と相談しながら決めておられる。事業所では「おかずは3品は作る」ようにされており、利用者同士「これ美味しいよ。食べてみて」等と、会話しながら食事をされていた。職員は、利用者と同じものを食べたり、お弁当を持参する職員もあるが、お弁当も利用者と一緒に食べるようにされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人別に摂取量を記録し、ひとり一人の状態に合わせた支援が出来るように工夫している。栄養状態や水分確保にも提携医への報告・相談を行っている。利用者の体調にも配慮した食事内容にも気を配っている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に声掛けし口腔ケアを促している。介助の必要な方は誘導、一部介助にて口腔ケアを支援している。又、口腔ケア体操も適宜行うよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々のレベル、排泄のリズムを把握し、トイレ誘導を行いトイレでの排泄を大切にしながら習慣化し生きる意欲や自身の回復、身体機能の向上を目指しトイレでの排泄支援を行っている。 (外部評価) 入院中、紙おむつを使用されていた方もあったが、事業所ではご本人の様子を見ながら、自立に向けた支援がご本人の負担にならないように考慮して、取り組みをすすめておられる。リハビリパンツを使用してトイレ誘導されたり、夜間は紙パンツを使用している方も、昼間は、布パンツを使用して、トイレで排泄できるよう支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 日々の排泄チェックを行い、飲食物の工夫や運動やトイレでの排泄機会を増やすことで予防に取り組んでいる。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 可能な限り利用者の希望があれば毎日でも入浴できるように支援している。利用者のその日の希望を確認、本人の意思でゆっくりと入れるように支援している。 (外部評価) 基本的に利用者個々に週2回入浴できるよう支援されているが、お風呂がお好きな方は毎日入浴できるよう支援されたり、仲のよい利用者同士で入浴されることもある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個人の生活のリズム、体調にあわせエアコン調整や、換気にも気を配り休息が出来る様支援している。又夜間には安心して眠っていただけるよう照明や騒音等にも配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の目的や副作用、用量等については受診記録にいつでも職員ひとり一人が確認できるようにしている。又、服薬していただく際には職員が2名で確認を行っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活の中から個々の状態や関心に応じた環境作りを行いそれぞれが役割を持ち張り合いや喜びのある日々を過ごしていただけるよう支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 普段の買い物や散歩に出かけていただくよう心掛けている。個々の誕生日等には本人の希望の馴染みの場所にも出かけ外食も行っている。	現在、全国にある法人グループホームは全体で「職員の運転する車に利用者を乗せない」ことになっており、利用者との外出時は、タクシーを利用されている。現在は、ちょっとした気分転換のドライブや買い物等に利用者が出かけることが難しい現状であり、職員は「利用者が外出する機会が少ない」と感じておられる。外出を楽しみにされている利用者も多く、今後も法人との話し合いを重ねて、安全を守り、利用者がドライブ等を楽しめたり外出を楽しめる機会を増やせるよう働きかけてほしい。又、事業所の周辺でも、利用者が楽しめるような場所の開拓をすすめ、利用者個々の楽しみや生活の拡がりを支援していかれてほしい。
			(外部評価) 歩いて近くのコンビニにおやつを買いに行かれることもある。11月には、奥道後の送迎バスを利用して奥道後の菊花展に利用者全員で出かけられた。季節や天気の良い時にはウッドデッキに出て、おやつを楽しまれたり、畑仕事のお好きな方には、庭の畑の草引きや世話をさせていただき、利用者ができるだけ外気に触れることができるよう支援されている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お預かりしているお小遣いから個々に応じて対応している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に応じて自由に電話をかけられるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) こたつ等の家庭用家具を使用し、家庭的な雰囲気作り、暖かい部屋作り、くつろげる雰囲気作りに配慮している。又、共有空間、各居室、全体を清潔に快適に暮らせる様に小まめに掃除をおこなっている。	
			(外部評価) 居間には大きなクリスマスツリー、壁にはリースや利用者と職員と一緒に作ったツリーのちぎり絵を飾っておられた。調査訪問時、昼食後、利用者が居間をほうきで掃いて掃除される様子うかがえた。午後からは、皆でテーブルを囲んで風船バレーを行っておられた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングや和室、デッキ中庭等の共同空間の中で自分の好きな場所で過ごしていただいたり、利用者同士が過ごせるよう工夫している。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた家具や、本人が落ち着く部屋のレイアウトを始め、好きな絵を壁面に飾ったり、お気に入りの花等を育てたりして居心地よく過ごせるよう支援している。	
			(外部評価) タンスやベッド等、居室には利用時に、ご自分のものを持ち込んでもらうようになっている。テレビや、以前愛用していたワープロを置かれている方が見られた。机と椅子を置き、椅子に座って雑誌等を読まれる方もある。ご夫婦で入居されている方は、一居室を寝室に、もう一居室を居間として使い分けて生活しておられる様子うかがえた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各居室に、表札やのれんを目印につけている。廊下ですりやトイレ浴槽内にも安全かつ自立した生活が送れるよう配慮、工夫している。	